



## 20歳—初桜の季節



国籍	ベトナム
職種	紙器・段ボール箱製造
実習実施者	伸興荷材株式会社
監理団体	GTS協同組合

オン ティ アイン グエット  
ON THI ANH NGUYET

「男性を尊重し、女性を軽蔑する」という考えのもとに育ちました。小さい頃はまだその文化をはっきり理解していませんでした。私の家族は4人までが姉妹でした。「男の子が家を継ぐ」という考え方が皆の心に根付いていましたから弟は家族全員の期待のもとに生まれました。家族は幸せでした。

私の親友は18歳の時に家族から結婚をするように頼まれました。彼女がそれに反抗した時にお母さんに「あなたは今はわからないが年を取ってからだと結婚できなくなります。」と言われました。私の姉も大学入試の時に叔父さんから「女の子が大学に行ってどうなりますか？数年間働いて結婚して下さい。」と言われてしまいました。大学で勉強するには大変お金が掛かります。女性は結婚する方が幸せになると伯父さんは考えていました。

最近のベトナム市場は就職希望者が豊富で多くの人々が大学を卒業しても良い就職に就けませんでした。ベトナムの文化では女性は常に不合理を受け入れなければなりません。私はそのような不公平な生活を受け入れることはできませんでした。そして大卒学歴には卓越した成果は無いと思えたので私は大学には行きませんでした。

した。

私は別の道を選びました。先進国の経済に触れたいと思いました。日本は島国でありその3/4は山岳地帯で毎年無数の自然災害があります。しかし自立と自助の精神を持った日本人は災害の困難を乗り越え、日本経済を世界の頂点へと導き常にトップの位置に立っています。従って日本はベトナムの研修生や留学生が来て勉強したいと憧れる国です。私もその先進的な科学技術を習得してベトナムに貢献したいと思いました。

日本で働くことを決心した時、私は多くの反対に直面しました。私はおそらく多くの困難とリスクを抱えることを覚悟していますが自分の決断を実行して行きたいと思います。

ウォルトディズニーが「夢見ることができれば、それは実現できる。」と言ったように私は高校の夏休みに色々な仕事をしました。それらの経験をしたことにより、やっと家族全員から日本に行くことの同意を得ました。

今、私は日本で研修生として会社で働いています。初めて桜を見た季節に私は20歳になりました。これからは何事も自分で決断し、その決断に責任を持つ必要があります。異国では親戚も友達もいません。私は精神的にも準備ができていたにも関わらず非常にショックを受けました。特に日本語が難しくコミュニケーションが苦手で仕事を指導してもらおう上で苦労しました。しかし幸いに会社の皆さんがとても熱心に導いてもらいましたので仕事にも慣れました。私が日本に勉強しに来た今回の決断は正しいと確信しました。

日本は先端科学技術が高いとして知られていて私もそのことを多く学びたいと思います。そして日本での3年間の青春にたくさんの新しい経験ができることを願っています。